

しみんけんきゅうニュース



発行:(公財)千里リサイクルプラザ 市民研究所 〒565-0826 大阪府吹田市千里万博公園4-3
TEL 06-6877-5300 FAX 06-6876-0530 <http://www.senri-recycleplaza.or.jp/>

第17回くるくるフォーラム「こども達が輝く環境学習」

3/9

【目次】

- P2 市民研究員委嘱状交付式
- P3 新年度 主担研究員挨拶
- P4-5 手作りおもちゃと環境 PT からの発信
- P6 くるくる環境スクール開校式
- P7-8 第 17 回くるくるフォーラム「環境学習」
- P9 学校における環境教育の現状と課題
- P10 5・6 月の予定



次に当市民研究員による学校での取組みを発表し(会場↓千里山コミセン)

はじめに浅利先生に環境学習の状況(SDGs)などをお話していただきました。

その後、パネルディスカッション・各班別の討議を行いました。



市民研究員委嘱状交付式開催 4/6



理事長の西川より委嘱状を交付しました。


次に職員紹介がありました。桜の下で記念撮影を行いました。

委 嘱 状

千里 花子様

公益財団法人千里リサイクルプラザ市民研究所
市民研究員を委嘱します
期間は令和2年3月31日までとします

平成31年4月1日

公益財団法人 千里リサイクルプラザ
理事長 西川俊孝 

環境にご関心のある方お待ちしております



わたしから

平成31年度 委嘱状交付式

エコイベントPT 田畑 寛子

平成31年度の市民研究員委嘱状交付式が、4月6日（土）午後1時より千里リサイクルプラザで行われた。西川理事長より、土屋研究所所長はじめ3名の主担研究員と32名の市民研究員に委嘱状が手渡された。期間は平成31年4月1日より令和2年3月31日までで、まさに新時代の幕開けを実感した。



西川理事長からは4つの視点からお話があった。1つ目は「環境スクール」について、昨年1年目として開講したが、12名の受講生のうち5名が市民研究員として登録された。今年度も募集を行っており、現在14名の申し込みがあるが若干余裕があるので、引き続きお知り合いの方にお声掛けをお願いしたい、とのこと。

2つ目は、くるくるフォーラムでも取り上げた「環境学習支援」について、現在は小学校のクラブ活動で主に行っているが、学習ということで見ると、千里リサイクルプラザは例年、環境学習発表会を行っており、昨年は小学校、中学校、ガールスカウトの発表があった。いずれも担当の先生や指導者の方々の理解と継続したかかわりがあって、子供たちへの気づきや環境問題への姿勢を引き出しているように思う。令和2年から始まる小学校の新学習指導要領では、社会、理科、生活科、体育、道徳の教科で、資源、廃棄物、自然、生物など環境にかかわる内容が授業のなかに入ってくるそうだ。これからは、クラブ活動に加えて、学

校現場、先生方へと支援の必要性があると考えている。

3つ目は、主担の先生方がおられる意味について、運営において先生方のご意見やお考えはプラザのバックボーンになっている。理論、実践、調査研究のノウハウ、組織団体とのネットワークなどお持ちの先生がかかわっていただいていることは大きな強みである。主担先生方と共に市民目線での調査研究、実践活動を進めていってほしい。

4つ目は、「くるくるフォーラム」「ごみゼロウォーク」などについて、これらはPT活動の枠を超えた実行委員会形式で運営されている。研究所の企画や運営に市民研究員自身が参加参加している。また、財団としても市民研究員のニーズに答えながら動きをサポートしていきたい、というお話をいただいた。



最後に満開の桜の下、記念撮影を行い気持ち新たに平成31年度の活動をスタートした。



新年度を迎えて — 研究所活性化のタイミング —

市民研究所 所長 土屋正春

交付式出席率は80%

新年度の市民研究員委嘱状交付式が4月6日に行われたが例年とは大きく異なる様子が見られた。私自身は一番前の列に座っていたので後ろに席を占めている研究員の皆さんの数までは分からなかったのだが、理事長から委嘱状を受け取る人がなかなか終わりにならないことに気がつくようになった。例年であれば20名そこそこなのでもっと早く済むためだ。交付式も終わり近くになって、出席した研究員は32名で研究員全体の80%に及ぶことが事務局から告げられたのだが、この違いが物語るのは何なのだろう。ぜひご一緒に考えてみたい。

研究所は活性化の途についた、か

ごみ問題、環境問題を市民レベルで考え、その成果を実践しつつ地域社会に広めようというのが研究所の使命なのだが、社会の関心はこうした問題からは離れる一方で研究員の新規募集は低迷を続けてきた。黒田先生からお聞きしたように、大量の募集案内を一方的に配布する時代は終わりを告げ、呼びかけ方に新しい工夫が必要な段階に至っている。要は、募集対象をもっと効率よく絞れる方法、研究所の考え方がよく伝わる方法の早急な考案が求められていることになる。

くるくる環境スクールの成果

昨年はくるくる環境スクールが開学し、研究所にとって大きな節目となった。体験学習に徹底したプログラムで12名の参加を得たのだが、スクール終了後にそのうちの5名が研究員としての活動に参加している。スクールの基本構想は「みんなで、楽しく、構えずに」なので、こうした雰囲気のできるだけ早い段階から参加者と共有できたことが「12分の5」という成果の一つの要因になったと考えている。今年度のスクールは14名の参加申し込みを得てスタートしている。「14分の何人」になるのだろう。ぜひとも7人、8人を目指したい。

参加型のスクール運営へ

先に挙げた雰囲気醸成に大きな力になったことに市民研究員によるさまざまな支援が得られたことがある。それぞれの回の細かな取り回しや受講生とのコミュニケーションのリードなど、事務局だけではとても気付かない面について積極的な貢献を頂くことができた。やはり実際の研究員の活動を目のあたりにして初めて研究所のあり方を納得できた受講生も多かったようで、「受講生・研究員・事務局」からなるトライアングル構成の更なる充実が急務なのは確かなことだ。

こうした雰囲気の必要性が研究所全体に再認識されるようになったからこそ「交付式出席率80%」が得られたのだと考えたいのだがいかがだろうか。



楽しいリサイクル体験で環境学習を支援しています！

手作りおもちゃと環境 PT 綿谷 一

手作りおもちゃと環境プロジェクトチームは「廃品を再利用した手作りおもちゃの指導を通して、ゴミの減量化と環境問題の啓発・意識の向上を図る」ことをテーマとして活動しています。

現在、研究員9名で活動し、市内の小学校36校の内9校各々3回、その他公民館等の出前講座、プラザのイベントでのおもちゃ作り体験など、年間44回以上の支援を行っています。

主に、牛乳紙パックを再利用した手作りおもちゃの指導を通して、ゴミの減量化と環境問題の啓発・意識の向上に関心を持ってもらうように、活動を行っています。

「手作りおもちゃ」は基本的に“動きのあるおもちゃ”を作るため、おもちゃを完成させた後それを使って遊ぶことができます。そして、おもちゃを上手に使うだけでなく、遊ぶことも教えます。メニューとして、16種以上のおもちゃを用意し、小学校の学習支援時に、マニュアルを持って帰ってもらい、家でも家族と一緒に作ってもらうようにしています。



<主なおもちゃ>

写真の順番に「水車ボート」・「レーシングカー」・「十字プロペラ」・「2連風車」・、等人気のあるおもちゃを作っています。

1時間の授業で（45分の学校もあります）おもちゃを作成します。

最初の授業で牛乳パックをリサイクルすると、トイレットペーパーができることの説明を5分程度話し、作業にかかります。

今年は最終の授業に、「振り返りシート」を配布

し、一番良かったおもちゃと、学習支援の感想を書いてもらい、今後の指導の参考にしていく予定です。

出前講座は、公民館に行き地域の児童におもちゃ作りの楽しさを知ってもらう活動を行っています。小学校低学年の児童の参加が多く、児童に合わせたおもちゃの選定を行っています。

おもちゃの種類により、高齢者の参加もあるのが公民館の特徴です。幅広い年齢層の作業は進み具合など、配慮する必要があります。



各種フェアでのおもちゃ作り体験は、エキスポシティなどで開催され、幼児が多く、人数も100前後の参加者があります。

フェアが終わると忙しかったことを忘れ、達成感が得られています。

支援をすると参加者の自分一人でできた喜びの笑顔や我々に感謝の言葉を投げて頂くたびに、逆に何倍もの感動を頂いています。

読者の皆様、我々はこんな素晴らしい活動を行っています。共に体験しませんか。

おもちゃ作りは難しくはなく、わからないところはメンバーが詳しくを指導しますのでだれでも参加できます。

自分を元気づけるためにも、手作りおもちゃと環境プロジェクトの研究員に是非参加してみてください。

連絡先：公益財団法人 千里リサイクルプラザ
TEL：06-6877-5300

手作りおもちゃと環境プロジェクト まで
ご連絡ください。

私たちは、手作りおもちゃと環境PTに入りました。

手作りおもちゃと環境PT

清水 啓子

有馬 久美子

【清水 啓子】

この度、手作りおもちゃと環境プロジェクトチーム（以下PT）に新しくメンバーに入れていただきました清水啓子です。

私は、昨年度の第1回くるくる環境スクールの1期生です。人生後半を折り返す時期にきて、社会に何か貢献できないか？又、私自身趣味で、粘土の花を長年製作してきました経験を生かして人々に役に立つことができないか？など、ただ漠然と考えておりました。

スクールでは、環境問題、ゴミ減量化の重要性など体験を通して勉強させていただきました。

手作りおもちゃ体験指導では、普段体験できない喜びをいただいています。まだまだ半人前で、先輩の方々の皆さんに温かくご指導をいただいております。

何よりも、子どもたちが小さい手で一生懸命作って完成したおもちゃを手にした時のキラキラした目を見て本当にやって良かったなあと思います。そして、私自身も子供達からパワーや感動をいただいています。

エキスポシティでのイベントでは年齢層が低いお子様も参加でき父兄の方々もお手伝いされたりするお姿を見て私まで温かい気持ちになります。



＜アースフェスタのおもちゃ作り体験風景＞

まだまだ微力ではありますが、未来を背負った子ども達に楽しみながら、環境問題の啓発、意識、ものづくりの喜びを伝えていけたら良いなと思っています。

【有馬 久美子】

手作りおもちゃと環境プロジェクトチームに新しくメンバーに入れていただきました有馬久美子です。

常々退職したら何かボランティアをしたいと思っておりましたところ、コミュニティセンターで、千里リサイクルプラザ主催の『第一回環境スクール』の貼り紙に目が止まりました。

9回講座があり、仕事をしていても無理のないスケジュールだったのと、内容が木工工作だったり、里山散策など楽しそうな感じだったので、申し込みました。

初回は自己紹介などもあり、ピンと張りつめた空気でしたが、回を追うごとに他の方のお名前とお顔が一致するようになりました。

里山見学の時の貸し切りバスで、長時間皆様と一緒に、打ち解けた雰囲気になり、大変楽しく勉強させていただきました。

修了式の後、土屋所長からPTに入り活動を行ってみたいかと、熱く語られる言葉と、PT代表の笑顔に背中を押され又子どもたちとふれ合えると聞き、手作りおもちゃと環境PTに加入しました。

PTでは、小学校の学習支援や各イベント、フェアでのおもちゃ作成指導を行いました。

メイシアターで開催されたイベントでは、3歳位から小学校低学年までの子どもたちに十字プロペラを作成してもらいました。プロペラに油性ペンでの色塗りもそれぞれの個性があり、父兄に手伝ってもらったりして完成した後、プロペラが飛んだ時の歓声や嬉しそうな顔、顔、顔、私も思わず顔がほころびました。小学校の学習支援で、牛乳パックを使っておもちゃを作成する指導も行いました。

この子どもたちの中から1人でもリサイクルや地球温暖化に関心を持って、将来地球環境のことを真剣に考え、いろいろな対策を実行してくれたらと願っています。おもちゃの準備も、チームに入って間もなく先輩の懇切丁寧な指導のもと楽しく作っています。諸先輩方の皆さまの足を引っ張らないよう頑張っていきたいと思っています。

くるくる環境スクール二期生 開校式

市民とお店をつなぐPT 打越明美

2019年4月13日(土)10時よりプラザ講義室で、市民研究員の茶園さんの司会で開校式が行われました。応募者は14名でしたが、当日は2名欠席され出席は12名でした。

(吹田市在住9名、茨木市在住2名、豊中市在住1名)

事務局から「何を見て応募されましたか?」の質問に、チラシを見て11名、知人の紹介が1名でした。

受講生の自己紹介では、以前になんらかの環境関係に関わっていたので、定年を前にして何か定年後の生活のヒントになればと思って応募した人、「リサイクルセンター」は何をする所か興味があって応募した人、様々な応募理由が述べられました。

施設の案内では、市民研究員の椎橋さんが手書きのスケッチ画を持参されて、随所で掲示して具体的に説明されたので分かりやすかったです。

3階のパラー前では、リユース食器の貸し出しについての説明の後、市内で廃棄された自転車から自転車工場の指導員が再生した自転車の展示を見ました。年間180台再生されて、毎月10台が抽選販売されたり、イベントの景品としても使われるそうです。

いよいよ破碎選別工場の見学です。4階通路から外に出ると目の前にストックヤード、下を見ると空き瓶の選別作業が見えました。

瓶は汚れている物や中身の残っている物を取り除き、先ずリターナブルビン(清潔に洗浄し、そのまま又使用する)を選別し、1升瓶は5回くらいはリユース出来るとのこと。

残りは8種の色に分別されるそうです。全てが手作業で頑張っておられる姿に頭が下がりました。

空き缶は、磁選機でアルミ缶とスチール缶に分別され、それぞれの回収業者に売却され資源として色々なものに再生されるのです。

大型複雑ごみは、燃えるごみと金属類を含む燃えないごみを手作業で分別し、燃えるごみは燃えやすい大きさに裁断し、コンベアーに流して資源循環エネルギーセンターで焼却され、燃えないごみは非鉄金属を回収してから破碎機で細かくし、磁選機で鉄を回収した後、それぞれの金属として売却され資源となるのです。正に、「混ぜればごみ、分ければ資源」です。

工房は自転車工房と布工房を見学しました。その後講義室に戻り、市民研究所の紹介、市民研究員のプロジェクトの紹介、さらに市民研究所が推進する「万博ごみゼロウォーク」「環境学習発表会」を、パワーポイントを使って、事務局が説明されました。

最後に皆さんからの質問を受け、「ひとこと」用紙に記入してもらい、第1回目は終了しました。



以下、主なスケジュール

第2回 5月11日(土)10時～

「環境にやさしいクッキングを身につけましょう」吹田市男女共同参画センター

第3回 5月25日(土)9時集合

「自然と触れ合いましょう」黒川地区へ

第4回 6月8日(土)10時～ 工房

「子どもと遊ぶ達人になりましょう」

第5回 7月11日(木)10時～ ダスキン

「企業の環境努力をもっと知りましょう」

第9回 9月21日(土) 閉校式

まだ受講者の定員にゆとりがありますので、お知り合いの方にお勧めください。

第17回くるくるフォーラム参加記

エコ体験PT 生野 俊介

3月9日（日）14時から千里山コミュニティーセンターで第17回くるくるフォーラムが開催されました。土屋所長の挨拶の中にもありましたが、当日は快晴で暖かく、外出に好適な気候であったにもかかわらずかなり多くの方が参集されました。一般市民4名、学校関係者5名、市民研究員19名、事務局7名など総勢36名となりました。



今年のフォーラムは、研究所の主活動の一つである環境学習支援に関連し、「子ども達に環境問題をどう伝えるか」という内容で、京都大学の浅利准教授の講義、研究所プロジェクトチームからの報告、パネルディスカッション、グループ討議の順で進められました。



浅利准教授からは「SDGs ことはじめ+SDGs 教育プログラム紹介」という内容での講義を頂きました。概略内容は以下の通りです。

最初に京都大学を中心にした活動例として、「エコ〜ど・京大」活動の中での「Blue Sea Foodカレー」「Kistory」（着物を大切に、日本文化を次世代に）を紹介いただきました。（因みに『エコ〜ど』とはECO+WORLDの造語です。）

次にSDGs（エス・ディー・ジーズ）とは何か？の話です。SDGs（持続可能な開発目標）は、国連が2030年までに達成すべき世界共通の17の目標を掲げ、持続可能な社会実現を目指したものです。共通目標は環境のことのみならず、貧困や教育、ジェンダーに起因する貧困など一見無関係な目標が並んでいるように見えて、実は全て繋がっています。

また、全ての人のための目標達成を目指すもので、**5つのP**、即ち人間(People)、地球(Planet)、豊かさ(Prosperity)、平和(Peace)のための目標を国際社会のパートナーシップ (Partnership)で実現して行こうというものです。地球を考えると、エコロジカルフットプリントの見方では、世界中の人がアメリカ並みの生活をするとしたら地球は**4個**必要、日本並みの生活で**2.4個**必要、世界平均で**1.5個**ということで、既に地球は限界にきているということが示されているとのことです。



この後 SDGs 推進例としてメガネで有名な鯖江市での展開例の紹介、また SDGs 先進度調査では京都が NO.1 であること、ネパールでの SDGs 進捗や京都大学での「1日1SDGs生活」などの説明がなされました。最後に、初等教育での SDGs はミニレクチャーや SDGs ノートの作成などで効果を上げていることを挙げられ、子ども達がかんり熱心に取り組むこと、環境問題は回答が複数あり子ども達の学習意欲が湧く、との締めくくりとなりました。以上が浅利准教授の講義概要ですが、かなり濃い中身を短時間で、レジメなしの講義のため記述に不正確な部分があるかもしれません。ご容赦下さい。次に、プラザ研究所の学習支援を実践している3つのPTからの現状報告がありました。各PTの実施内容・課題が簡潔にまとめられていたと感じました。



パネルディスカッションは浅利准教授、千里第一小学校校長先生、市民研究員代表にコーディネー

ターの4名で進められました。話題は、近い将来クラブ支援から授業支援への移行が予想されることから、この点での課題などが中心となりました。授業支援は、一つのテーマに3時間充てることができるので内容の充実が図れる利点がある一方、支援に際しての事前打ち合わせが必須であり、先生の時間確保の観点からコーディネーター的な存在が不可欠、との意見があり、この点が今後の課題かと思われま

す。また、こういった学習支援での効果についての研究は緒についたところで、今後の研究進捗に期待したい旨の浅利准教授の説明もありました。

最後のグループ討議では先生、市民、市民研究員がそれぞれの立場で学習支援に期待することや学校へのお願い事など忌憚の無い話し合いが行われていた様でした。



閉幕の挨拶の中で小幡副所長から、学習支援のクラブ支援から授業支援への移行に際してのコーディネーターの必要性についての今後の検討並びにSDGsの中で子供たちがどんな状況にあるのかといったことの検討が必要、との締めくくりがあり、2時間半に及ぶ長丁場のフォーラムが終了しました。

私自身 SDGs について以前から興味はあったものの、小学生への展開は早すぎるのでは、と思い学習支援の場では直接的には触れてきていません。実践していることが正にSDGsの考えに沿ったことだろうとは思っていますが、今後もう少しSDGs自体のことにも触れる必要もあるか感じた次第です。

かなり内容の濃い今回のフォーラムでした。お疲れ様でした！

以上

学校における環境教育の現状と課題

事務局 山中 貞志

学校における環境教育の必要性が言われ始めたのは30年ほど前のことである。それまでは学校においては、工場からの廃液や排出ガスによる環境汚染が「公害」として取り上げられ、受け身としての学習が主であった。しかし、生活環境の変化により、工場よりむしろ家庭からのごみの排出や、生活污水などが問題となる中で、これからの社会を担う子どもたちが主体的に考え行動できるよう、吹田市の小・中学校において環境教育の取組が始められた。

まず、小学校では「土、水、空気、生き物」という分野に分け、平成6年から観察や実験を取り入れた副読本（あおいそら・くらしと環境）が作られた。また、中学校では「自然、水、大気、ごみ、地球環境」という分野に分け、これまで行われていた「たんぼぼ調査」や「せみの抜け殻調査」「吹田の大木調査」などを活用しながら、平成8年に副読本（吹田発環境通信）が作られた。副読本を活用しての学習は、全国的にも少なく、各地の教育委員会よりの問い合わせがあった。

副読本の活用に合わせて、「プールにおけるヤゴの救出」や「生ごみのたい肥化（給食ゴミのたい肥化）」「ビオトープづくり」「緑のカーテン」「EM菌の活用」など、活動をとおしての環境学習や、「ごみ減量や緑化」のポスターを描くなど、行政やさまざまな自然活動団体と連携した啓発活動などが広く行われ、定着したものとなってきた。これらの取組を通じて、各学校では「資源ごみ」と「燃焼ごみ」の分別の徹底や、裏紙印刷の励行、必要以外の場所では照明を切るなどのことが当たり前に行われるようになった。

（これからの環境教育への課題）

企業や社会全体の環境への意識の高揚により、河川の水質は改善されエコスタイルも定着しつつある。一方で学習指導要領な改定により、全体の指導時数は多くなったものの、各教科の指導内容が増加した。その結果、環境教育に使われていた時間の多くが教科の補充にまわされ、（小学校では総合的な学習のうち35時間が英語活動に変更）1つの課題を、ゆっくりに時間をかけて取り組むことが難しくなってきた。また、これまで財政的に環境教育を支えてきた行政も、歳入の不足により、副読本の作成やビオトープ

づくりなどへの財政的な援助が出来なくなってきた。このことは、系統的な指導ができにくくなることであり、環境教育に対する教員の意識次第によって、左右されることになってくる。



各校における環境教育は、教育課程編成の責任者である校長によって決定されるものであるが、前述のような状況の中では、4年生における廃棄物処理とその利用の仕組みを調べる学習の中で、環境問題として発展学習させることや、5年生の社会科や理科の公害や自然災害の単元で、自己学習として取組ませる程度しか学習計画の中には組み入れられないのが実態である。ただ、吹田市の全ての学校が同じ内容の環境問題に取り組む必要はなく、「ヒメボタルの観察」「セミの抜け殻調査」「神崎川の水質」など、地域による特色を設けて取り組むことにより、その学校が地域環境と合わせた環境教育を取組んでいける可能性は多いにあると考えている。

いま、吹田市の学校に提供されている環境関連のものは、ライオンズクラブによるチューリップの球根の提供、農協からの稲の提供、吹田市から雨水の再利用のためのタンクの設置などがある。また（公財）千里リサイクルプラザ市民研究所やSELFなどによる小学校への環境学習支援があるが、いずれも体験を中心としたものであり、環境のことを深く考えるまでには至っていない。また、今後の教育課程の改訂によってクラブ活動への支援が行いにくい状況が生まれる可能性がある。このことから、学習支援の軸足をクラブ活動から正規の授業に移していく必要があると考えている。

では、上記のようにただでさえ行いにくい環境教育を、学校における授業の中でどのように行うのか。答えは行政（教育委員会、環境部）、学校とプラザとの連携であると考え。プラザが環境教育の実践プランを学校に示し、賛同を得た学校へ行政とともに実施のための支援をしていくことである。必要であればそのための経費の負担や、大学企業などとの連絡をプラザが行う必要も出てくるであろう。

生物多様性の問題、地球温暖化防止、マイクロプラスチック問題など重要かつ新たな環境問題がたくさん出てきている中で、これと真正面から向き合える子ども達を育成するため、取り組みを進めなければならない。

市民研究所 5 月の予定

日	曜	催し	時間・場所	備考
1	水	天皇即位の日		
2	木	国民の休日		
3	金	憲法記念日		
4	土	みどりの日		
5	日	こどもの日		
6	月	振替休日		
7	火			
8	水			
9	木	手作りおもちゃと環境PT定例会	13:00～ 研究室	手作りおもちゃと 環境PT
10	金			
11	土	くるくる環境スクール②	10:00～13:30 男女共同参画センター	「環境にやさしいクッキング」
		エコ体験PT定例会	11:00～ 研究室	エコ体験PT
12	日	エコイベントPT定例会	10:00～ 産業フェア	エコイベントPT
13	月	休館日		
		環境学習支援	14:45～15:45 豊津第一小学校	手作りおもちゃ と環境PT
14	火			
15	水	環境学習支援	13:15～14:00 佐井寺小学校	エコ体験PT
16	木			
17	金	環境学習支援	14:15～15:15 東山田小学校	手作りおもちゃ と環境PT
18	土	第2回代表者会議 ニュース編集企画会議	10:00～11:30 プラザ講義室2	主担・代表者 事務局
		第1回市民研究員研修講座	13:30～15:00 プラザ講義室2	主担・市民研究員・ 事務局
19	日			
20	月	休館日		
21	火	環境学習発表会協議会	16:00～17:00 教育委員会	事務局
22	水	環境学習支援	10:40～11:25 古江台小学校	おもちゃPT・エコ体 PT・お店PT
23	木			
24	金	第1回研究運営委員会	14:00～17:00 立命館大学	主担・執行役員事務 局
25	土	くるくる環境スクール③	9:00～16:00 川西市黒川地区	「自然と触れ合い ましょう」
26	日			
27	月	休館日		
		環境学習支援	14:40～15:25 千里第一小学校	市民とお店をエコ でつなぐPT
		環境学習支援(水の話)	14:35～15:35 藤白台小学校	エコ体験PT
28	火			
29	水	環境学習支援	14:20～15:20 吹田第一小学校	手作りおもちゃ と環境PT
30	木			
31	金			

市民研究所 6 月の予定

日	曜	催し	時間・場所	備考
1	土	第3回代表者会議	13:15～15:00 プラザ講義室1	主担・代表者 事務局
2	日			
3	月	休館日		
4	火			
5	水	環境学習支援	13:30～14:30 佐井寺小学校	エコ体験PT
6	木			
7	金			
8	土	くるくる環境スクール④	10:00～14:00 プラザ木工工房	「子どもと遊ぶ達人 になりましょう」
9	日			
10	月	休館日		
		環境学習支援	14:40～15:25 千里第一小学校	市民とお店をエコ でつなぐPT
		環境学習支援	14:45～15:45 豊津第一小学校	手作りおもちゃ と環境PT
		講師交流会	16:00～ 千里第二小学校	おもちゃ・エコ体・お 店・事務局
11	火			
12	水	環境学習支援	13:30～14:30 千里丘北小学校	市民とお店をエコ でつなぐPT
13	木			
14	金			
15	土			
16	日	千里エコフェスタ	10:00～14:00	くるくるプラザ広場 ●
17	月	休館日		
		環境学習支援(紙すき)	14:40～15:25 高野台小学校	エコ体験PT
18	火			
19	水			
20	木			
21	金	環境学習支援	14:15～15:15 東山田小学校	手作りおもちゃ と環境PT
22	土			
23	日			
24	月	休館日		
		環境学習支援	14:35～15:35 藤白台小学校	市民とお店をエコ でつなぐPT
		環境学習支援	14:40～15:25 千里第一小学校	手作りおもちゃ と環境PT
25	火	環境学習支援	14:45～15:25 千里第二小学校	エコ体験PT
26	水	環境学習支援	14:20～15:20 吹田第一小学校	手作りおもちゃ と環境PT
		環境学習支援	9:00～10:30 千里金蘭大学	エコ体験PT
27	木			
28	金			
29	土			
30	日			

は、資源リサイクルセンター(くるくるプラザ)の休館日です。●は、一般の方も参加できます。詳しくはプラザまで。

※予定は、変更する場合があります。